令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団
施設名	京都コンサートホール
内定額	28,294　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
公-01	第29回 京都の秋 音楽祭 開会記念コンサート	令和7年9月13日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ 大ﾎｰﾙ
公-02	京都コンサートホール 開館30周年記念事業 ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団 京都公演	令和7年11月11日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ 大ﾎｰﾙ
公-03	京都コンサートホール開館30周年記念事業 京都コンサートホール×京都市交響楽団プロジェクトVol.6「広上淳一×ローマ三部作」	令和7年11月15日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ 大ﾎｰﾙ
公-04	京都北山 マチネ・シリーズ（全4回）	令和7年6月25日,8月19日, 10月28日,令和8年2月17日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙﾎｰﾙﾑﾗﾀ
公-05	京都コンサートホール開館30周年＆ピエール・ブーレーズ生誕100年記念事業 ブーレーズへのオマージュ	令和7年11月8日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙﾎｰﾙﾑﾗﾀ
公-06	京都コンサートホール開館30周年記念事業 KCH的クラシック音楽のススメ Vol.6「ブラス・スターズ in KYOTO」	令和7年11月30日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙﾎｰﾙﾑﾗﾀ
人-01	Join us（ジョイ・ナス）！～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～第3期登録アーティスト最終年度リサイタル（全2回）	令和8年3月7日,3月8日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙﾎｰﾙﾑﾗﾀ
人-02	ピアニスト永野英樹による公開マスタークラス	令和7年11月9日	京都市立芸術大学 堀場信吉記念ﾎｰﾙ
普-01	京都コンサートホール 開館30周年記念事業 聴いて！歌って！楽しもう！きょうと・キッズ・フェスタ Special support by 足立病院「0歳から楽しめるオーケストラ・コンサート」	令和7年5月3日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ 大ﾎｰﾙ
普-02	第14回 関西の音楽大学オーケストラ・フェスティバル IN 京都コンサートホール	令和7年9月15日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ 大ﾎｰﾙ
普-03	京都コンサートホール開館30周年記念事業　京都市ジュニアオーケストラ創立20周年記念コンサート	令和8年1月31日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ 大ﾎｰﾙ
普-04	京都市ジュニアオーケストラ石川県訪問コンサート（2日間）	令和8年3月22日,3月23日	石川県立音楽堂 ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ ほか
普-05	京都コンサートホール開館30周年記念事業 Kyoto Music Caravan 2025（全10回）	令和8年3月14日 ほか計10日	京都ｺﾝｻｰﾄﾎｰﾙ 大ﾎｰﾙ ほか
普-06	Join us（ジョイ・ナス）！～キョウト・ミュージック・アウトリーチ～（全22回）	令和7年6月13日 ほか計19日	京都市内の小学校 ほか

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	19	18	23
	公演事業	9	9	10
	（内、本助成対象事業本数）	6	7	6
	人材養成事業	3	3	2
	（内、本助成対象事業本数）	3	3	2
	普及啓発事業	6	5	9
	（内、本助成対象事業本数）	4	4	6
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　レクチャー、トークイベント	1	1	2

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	419	437	444
	ホール名：大ホール　座席数：1,839席	215	237	252
	ホール名：ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙﾎｰﾙﾑﾗﾀ　座席数：514席	204	200	192
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	14,621	13,522	18,388
	公演事業	9,830	8,264	11,329
	人材養成事業	3,229	2,895	591
	普及啓発事業	1,461	2,074	6,354
	共生社会事業			
	その他　内容：　レクチャー、トークイベント	101	289	114
	貸館事業入場者・参加者数	226,454	251,311	242,995
	その他　内容：　記入してください	0	0	0
	計	241,075	264,833	261,383
開館日数		337	338	337
施設の利用可能日数 （＝365－（保守点検日数+休館日数））		314	296	331
施設の利用日数		215	237	252
施設の利用率(%) （＝利用日数/利用可能日数）		68.5%	80.1%	76.1%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	19	41	14,621	0	18	0	0	0	0	1
	共催・提携公演（※2）	26	26	12,614	0	26	0	0	0	0	0
	貸館公演	319	319	213,840	0	319	0	0	0	0	0
	計	364	386	241,075							
令和6年度	主催公演（※1）	18	43	13,522	0	18	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	19	19	8,220	0	19	0	0	0	0	0
	貸館公演	283	283	243,091	0	283	0	0	0	0	0
	計	320	345	264,833							
令和7年度	主催公演（※1）	23	46	18,388	0	22	0	0	0	1	0
	共催・提携公演（※2）	20	20	14,757	0	20	0	0	0	0	0
	貸館公演	301	301	228,238	0	301	0	0	0	0	0
	計	344	367	261,383							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	第29回 京都の秋 音楽祭 開会記念コンサート	目標値	1,400	76.4%	リピート率	聴衆アンケートにリピーターか否かの項目を設け、30%以上を目指す	60.70%
		実績値	1,674	91.3%	シビックプライドの形成	市民招待客に対して「公演を鑑賞してシビックプライドが高まったか」という項目を設置し、「はい」の回答率について80%を目指す	93.60%
					鑑賞者の満足度	聴衆アンケートに満足度に関する項目を設置し、「非常によかった」「よかった」の回答率について85%以上を目指す	98.60%
公-02	京都コンサートホール 開館30周年記念事業 ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団 京都公演	目標値	1,230	67.1%	集客率	60%以上の集客率を目指す	97.30%
		実績値	1,784	97.3%	鑑賞者の満足度	聴衆アンケートに満足度に関する項目を設置し、「非常によかった」「よかった」の回答率について85%以上を目指す	97%
公-03	京都コンサートホール開館30周年記念事業 京都コンサートホール×京都市交響楽団プロジェクト Vol.6「広上淳一×ローマ三部作」	目標値	1,400	85.4%	集客率	70%以上の集客率を目指す	91.70%
		実績値	1,503	91.7%	鑑賞者の満足度	聴衆アンケートに満足度に関する項目を設置し、「非常によかった」「よかった」の回答率について85%以上を目指す	99.40%
公-04	京都北山 マチネ・シリーズ（全4回）	目標値	1,520	74.5%	集客率	70%以上の集客率を目指す	74.90%
		実績値	1,527	74.9%	鑑賞者の満足度	聴衆アンケートに満足度に関する項目を設置し、「非常によかった」「よかった」の回答率について85%以上を目指す	97.80%
公-05	京都コンサートホール開館30周年&ピエール・ブーレーズ生誕100年記念事業 ブーレーズへのオマージュ	目標値	330	64.7%	集客率	50%以上の集客率を目指す	46.60%
		実績値	238	46.7%	鑑賞者の満足度	聴衆アンケートに満足度に関する項目を設置し、「非常によかった」「よかった」の回答率について85%以上を目指す。	90.90%
					企画の独自性について	聴衆アンケートに、公演内容について「京都コンサートホールならではの企画内容だと思うか」という項目を設置し、「そう思う」の回答率について60%以上を目指す	81.80%
公-06	京都コンサートホール開館30周年記念事業 KCH的クラシック音楽のススメ Vol.6「プラス・スターズ in KYOTO」	目標値	400	78.4%	集客率	70%以上の集客率を目指す	75.90%
		実績値	387	75.9%	鑑賞者の満足度	聴衆アンケートに満足度に関する項目を設置し、「非常によかった」「よかった」の回答率について85%以上を目指す。	96.70%
					30歳以下のチケット販売数	30歳以下のチケット（U-30券）の販売数として50枚を目指す	200%

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団
施設名	京都コンサートホール
内定額	28,294　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	第 29 回 京都の秋 音楽祭 開会記念コンサート	入場者数・入場者率ともに目標を大きく上回るとともに、リピート率が 60.7%と目標の約 2 倍に達し、継続的な観客層の形成に顕著な成果が認められた。加えて、市民招待客におけるシビックプライドの向上（93.6%）および満足度（98.6%）はいずれも極めて高い水準であり、本事業が単なる公演実施にとどまらず、地域文化への意識醸成および社会的価値の創出に寄与した点は特筆すべき成果である。
公-02	京都コンサートホール開館 30 周年記念事業 ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団 京都公演	本公演は、入場者数 1,784 人（目標 1,230 人）、入場者率 97.3%（目標 67.1%）と、いずれも目標を大幅に上回り、ほぼ満席となる成果を達成した。加えて、鑑賞者満足度は 97%（目標 85%）と極めて高い水準を記録し、量的成果と質的成果の双方において優れた結果となった。 また、開館 30 周年記念事業として実施することで、ホールのブランド価値および国内外への発信力の向上にも寄与した。 さらに、本公演に関連して、オーケストラ団員による市立音楽高校でのマスタークラスを実施し、その内容を一般公開することで、次世代の人材育成および市民への教育的価値の提供にも取り組んだ。これにより、本事業は単なる公演実施にとどまらず、国際的な音楽文化の交流と地域への還元を両立する事業としての意義を有している。
公-03	京都コンサートホール開館 30 周年記念事業 京都コンサートホール×京都市交響楽団プロジェクト Vol.6「広上淳一×ローマ三部作」	本公演は、入場者数 1,503 人（目標 1,400 人）、入場者率 91.7%（目標 85.4%）と、いずれも目標を上回る結果となり、安定した集客を実現した。また、鑑賞者満足度は 99.4%（目標 85%）と極めて高い水準を記録し、質的側面においても非常に高い評価を得た。 本事業は、京都コンサートホールと京都市交響楽団による協働プロジェクトとして継続的に実施しているシリーズの一環であり、開館 30 周年という節目において、京響との連携による質の高い音楽体験を提供した点に意義がある。 一方で、今後は新規来場者の獲得や企画面での発展性をどのように確保するかが課題である。 以上より、本事業は安定的かつ高水準の成果を達成したと評価する。
公-04	京都北山 マチネ・シリーズ（全 4 回）	本事業は、全 4 回の公演シリーズであり、入場者数 1,527 人（目標 1,520 人）、入場者率 74.9%（目標 74.5%）と、いずれも目標を達成した。各回において大きなばらつきなく安定した集客を維持し、継続的な鑑賞機会の提供を実現した点は評価できる。 また、鑑賞者満足度は 97.8%（目標 85%）と高水準を維持しており、シリーズ全体として質の高い音楽体験を提供できた。 一方で、集客面においては目標達成にとどまり、さらなる新規層の開拓や来場者数の拡大には課題が残る。今後は、シリーズの魅力をより広く発信し、観客層の新たな開拓を図ることが求められる。 以上より、本事業は安定的な運営と一定の成果を達成したと評価する。

公-05	京都コンサートホール開館 30 周年＆ピエール・ブーレーズ生誕 100 年記念事業 ブーレーズへのオマージュ	本公演は、ピエール・ブーレーズ生誕 100 年という節目にあわせた企画として実施し、鑑賞者満足度 90.9%（目標 85%）、また「京都コンサートホールならではの企画である」との評価が 81.8%（目標 60%）に達するなど、企画・演奏内容に対する評価は高い結果となった。 一方で、入場者数は 238 人（目標 330 人）、入場者率は 46.7%（目標 64.7%）と目標を下回り、集客面においては課題が残る結果となった。現代音楽という専門性の高い内容であったことが大きな要因として考えられる。 本事業は、芸術的価値および企画の独自性においては一定の成果を上げたものの、事業全体としての到達度は十分とは言えず、今後はターゲット層に応じた広報戦略の強化等が必要であると考える。 以上より、本事業は一部において成果を上げたものの、総合的には課題が残る結果となったと評価する。
公-06	京都コンサートホール開館 30 周年記念事業 KCH 的クラシック音楽のススメ Vol.6「ブラス・スターズ　in KYOTO」	本公演は、入場者数 387 人（目標 400 人）、入場者率 75.9%（目標 78.4%）と目標にはわずかに届かなかったものの、集客率 70%以上という指標は達成し、一定の来場者数を確保した。 一方で、本事業の重要な目的である若年層の開拓においては、30 歳以下のチケット販売数が 100 枚（目標 50 枚）と目標の 2 倍に達し、ターゲット層への明確な到達が確認できた点は特筆すべき成果である。 また、鑑賞者満足度は 96.7%（目標 85%）と高水準を記録しており、初めてクラシック音楽に触れる層を含め、質の高い体験を提供できたと考えられる。 以上より、本事業は集客面において一部課題を残しつつも、若年層の観客を増やすという目標において顕著な成果を上げたと評価する。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

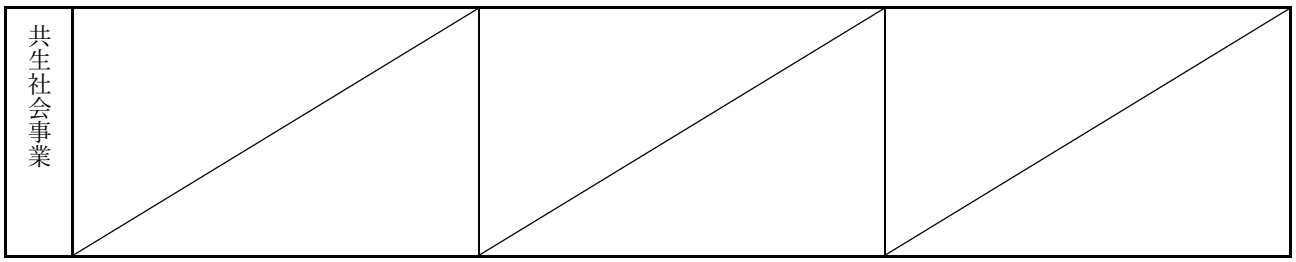
評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	①聴衆アンケートに、満足度に関する項目を設置する。 ②公演事業の企画力を聴衆から評価されているかどうか調査するため、聴衆アンケートに「京都コンサートホール独自の企画内容だと思うか」という項目を設置する。 ③新聞や雑誌等への記事あるいは演奏会表の掲載を目指す。	①「非常によかった」「よかった」の回答率について80%以上を目指す。 ②「そう思う」の回答率について60%以上を目指す。 ③記事・演奏会表ともに、6事業で4本以上の掲載を目指す。	①96.7% ②92% ③13本
人材養成事業	①事業参加者（実施側）に対してアンケートを実施し、「この事業に参加してよかったか」という項目を設置する。 ②聴衆アンケートに、満足度に関する項目を設置する。	①「参加してよかった」の回答率について80%以上を目指す。 ②「非常によかった」「よかった」の回答率について85%以上を目指す。	①100% ②97.8%
普及啓発事業	①聴衆アンケートに、満足度に関する項目を設置する。 ②事業参加者（実施側）に対してアンケートを実施し、「この事業に参加してよかったと思うか」という項目を設置する（普-02,03,04,05（ファイナルコンサートのみ）,06）。また、なぜよかったかという具体的な回答も求める。 ③普-03の「京都市ジュニアオーケストラ」の事業について、京都市交響楽団の楽団員からの指導に関するメンバーアンケートを実施する。	①「非常によかった」「よかった」の回答率について80%以上を目指す。 ②「参加してよかった」の回答率について 80%以上を目指す。具体的な回答については、次回以降の企画立案の際に活用する。 ③「指導を受けてよかった」の回答率について 90%以上を目指す。具体的にどのような指導がよかったか、自由回答欄については、京響の団員とも共有し、次回以降の指導内容に活用する。	①98.0% ②100% ③100% 自由回答欄については「パート練習で遅いテンポで皆と合わせる練習を増やしてほしい」「音楽に対する考え方を教えてもらい、新しい視点が得られた」「合奏の時間を増やしてほしい」「京響楽団員による貴重なレッスンを受けることができ、毎回のレッスンが楽しかった」「親身に相談にのってもらえた」「楽譜を見ているだけでは気づきにくいことを教えてもらえた」等の記載があった。



（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	公演事業においては、鑑賞者満足度が 96.7%（目標 80%）と大きく目標を上回り、質の高い鑑賞体験を提供できた。また、「京都コンサートホール独自の企画内容である」との評価も 92%（目標 60%）に達し、企画力に対する高い評価が得られた。 さらに、新聞・雑誌等への掲載は 13 本（目標 4 本）と大幅に目標を上回り、事業の発信力および社会的認知の拡大にも寄与した。 以上より、公演事業は質・独自性・発信力の各側面において高い成果を上げたと評価する。

人材養成事業	
自己評価	人材養成事業においては、事業参加者の満足度が 100%（目標 80%）に達し、すべての参加者から高い評価を得た。また、鑑賞者満足度も 97.8%（目標 85%）と非常に高い水準を記録し、実施内容の質の高さが確認された。 本事業は、参加者自身の学びと成長に資するとともに、成果発表の場としての公演の質も高く、育成と実演の両面において優れた成果を上げた。 以上より、本事業は人材養成の観点において極めて高い成果を達成したと評価する。

普及啓発事業	
自己評価	普及啓発事業においては、鑑賞者満足度が 98.0%（目標 80%）、参加者満足度が 100%（目標 80%）、さらに指導に対する評価も 100%（目標 90%）と、すべての指標において目標を大きく上回る結果となった。 また、自由記述においても、「音楽に対する新たな視点が得られた」「具体的な演奏技術への理解が深まった」「指導が丁寧で有意義であった」など、内容の質や指導の有効性を示す具体的な意見が多数寄せられており、事業の教育的効果が実質的に発現していることが確認できる。 以上より、本事業は市民への音楽文化の普及および次世代育成の双方において、極めて高い成果を上げたと評価する。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①多言語チラシを制作する公演事業（公-02, 03, 05）について、チケットの英語購入者の数を測定する。 ②海外アーティストや海外在住のアーティストとの交流を含む事業（公-02, 人-02）について、事業参加者にアンケートを行い、「今回のイベントに参加して、国際的な視野が広がりましたか」「広がった場合、今後の活動にどのように活かしていきたいですか」という項目を設定する。	①3 公演の平均として 5 枚以上を目指す。 ②収集した内容を次回以降の企画立案の際に活用し、より国際的な目線での企画立案を目指す。	①17 枚 ②100％ 自由回答欄には「フランスへの興味を持った。現代音楽を勉強するのであればフランスへの留学が必要不可欠だと感じた」「練習するだけではなく、楽譜を分析したり参考資料を読むことの重要性を再確認した」「もっといろんな現代音楽に取り組み、現代音楽への理解をさらに深めたい」「現代音楽に対するアプローチの種類をより増やしたい」「留学して音楽を学びたいという気持ちがより強くなった」「教えていただいたことを元に、より技術と表現を洗練したものにしていきたい」「将来オーケストラ団員を目指したい」等の記載があった。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	国際性の観点において、本事業は海外在住アーティストの招聘および人的交流を通じて、参加者の国際的視野の拡大に寄与した。交流を含む事業におけるアンケートでは、「国際的な視野が広がった」との回答が100％に達し、自由記述においても、海外での学びへの関心の高まりや今後の活動への具体的な意欲が示されるなど、意識の変化が確認された。 また、多言語チラシを制作した公演において、英語によるチケット購入者数は平均 17 枚（目標 5 枚）と目標を大きく上回り、在住外国人等への一定の周知が実現した。 一方で、海外団体との共同制作や、訪日外国人を含む新たな観客層の大規模な獲得には至っておらず、今後は国際的なネットワークの強化およびインバウンド集客のさらなる展開が課題である。 以上より、本事業は国際交流および国際的視野の醸成において顕著な成果を上げたと評価する。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	「京都におけるクラシック音楽の殿堂」としての役割を十分に果たすとともに、若い芸術家たちの憧れの舞台となることを目指し、市民の芸術文化振興の拠点となるよう、様々な層の利用者に向けた利用促進を行う。
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①子どものための事業（普-01）において、次の項目を測定する。 ①-1：親子で無料参加できる創造的なイベントを開催する。 ①-2：「0 歳から楽しめるオーケストラ・コンサート」において、小学生以下の聴衆にたくさん参加してもらう。 ②関西の音楽大学・芸術大学８校が参加する事業（普-02）において、当ホールは８校のハブ的な役割（実行委員会の事務局）を果たせたか、各大学の実行委員にアンケートを実施する。 ③アウトリーチ事業（普-06）において、新たな受け入れ先を開拓する（特に総合支援学校、老人介護福祉施設等）。 ④貸館利用者の満足度アンケートを実施する。 ⑤ホール会員数の増加を目指す。	①-1：親子が参加できる、少なくとも 3 つのイベントを実施する。 ①-2：チケット購入者の測定を行い、小学生以下のチケット購入者として 500 名以上を目指す。 ②「京都コンサートホールは文化拠点としての役割を果たせた」という回答率として 80%以上を目指す。 ③新たな受け入れ先として、5 機関以上を目指す。 ④「満足」「ほぼ満足」との回答率として、70%以上を目指す。 ⑤今年度から会費を 1,000 円から 2,000 円に引き上げたため、昨年度のホール会員数を維持することを目指す。	①-1：親子が参加できるイベントを 3 つ実施し、多くの人々の参加があった。 ①-2：小学生以下のチケットは 565 枚の販売があった。なお、未就学児は膝上鑑賞無料としていたが、膝上鑑賞ありのチケットは 268 枚の販売があった。 ②100% ③新規の受け入れ先は 6 機関であった。 ④95.7% ⑤昨年よりも 474 名増えて、合計 4,242 名。

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	地域文化拠点機能の観点において、本事業は多面的に高い成果を上げた。まず、子ども向け事業として親子参加型イベントを複数実施するとともに、「0 歳から楽しめるオーケストラ・コンサート」において小学生以下のチケット販売数が 565 枚に達するなど、次代を担う子どもたちへの鑑賞機会の提供を実現した。 また、関西の音楽大学・芸術大学 8 校が参加する事業においては、当ホールが実行委員会の事務局としてハブ機能を担い、「文化拠点としての役割を果たせた」との評価が 100%に達するなど、地域の教育機関をつなぐ中核的役割を果たした。 さらに、アウトリーチ事業では新たに 6 機関を開拓し、総合支援学校や福祉施設等への展開を通じて、地域コミュニティとの連携および社会的包摂にも寄与した。 加えて、貸館利用者満足度は 95.7%（目標 70%）と高水準を維持し、ホール会員数についても会費値上げ後にもかかわらず前年より 474 名増加するなど、利用基盤の拡充と拠点機能の強化が確認された。 以上より、本事業は地域の文化拠点としての機能を総合的に発揮し、教育・連携・利用促進の各側面において極めて高い成果を上げたと評価する。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①若年層の利用者の増加を目指す。 ②障がいのある方の利用者の増加を目指す。 ③バリアフリーコンサート（普-05「ファイナルコンサート」）において、障がいのある方にアンケートを実施し、満足度を測定する。また、アクセスしやすかったかどうか、気になる点がなかったか、自由回答欄も設置する。 ④公演事業における外国人の来場者数（＝英語でのチケット購入者数）を測定する。 ⑤アウトリーチ事業の実施数を増やす。	①学生割引チケットや 30 歳以下を対象とした U-30 券を設定している事業において、平均 20 枚以上の購入を目標とする。 ②障がいのある方割引チケットを設定している事業において、平均 5 枚以上の購入を目標とする。 ③「非常によかった」「よかった」の回答率として 60%以上を目指す。また、自由回答欄に書かれている内容について、次回以降の企画立案に活用する。 ④平均 5 枚以上を目指す。 ⑤20 コマ以上を目指す。	①公演/人材/普及合わせて 9 事業が対象となり、平均 119 枚の購入があった（高校生以下や未就学児対象のチケット含む）。 ②公演/人材/普及合わせて 10 事業が対象となり、平均 26.7 枚の購入があった。 ③障がいのある方のみを対象としたアンケート調査が難しく、来場者全体を対象としたアンケート調査とした。満足度は 96.7%が「非常に良かった」「良かった」と回答。スタッフの対応については 100%が「非常に良かった」「良かった」と回答。自由回答については「自由に移動できた」「みなさんのやさしさがうれしかった」「子どもの声が出ても立っても OK でよかった」「大人用おむつ替えスペースが用意されていてよかった」「出入り自由で会場が明るくてよかった」「会場全員で音を楽しむことができて大変よかった」等の声が寄せられた一方「トイレが使いにくい」という声もあった。 ④6 事業平均で 14 枚の購入があった。 ⑤22 コマを実施した。

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	多様性およびアクセシビリティの観点において、多様な利用者層へのアプローチと環境整備の両面において顕著な成果を上げた。 まず、若年層の利用については、対象事業における平均購入枚数が 119 枚（目標 20 枚）と大きく目標を上回り、若年層の来場促進において明確な成果が確認された。また、障がいのある方の利用についても、平均 26.7 枚（目標 5 枚）と目標を大幅に上回り、鑑賞機会の拡充が実現した。 さらに、バリアフリーコンサートにおいては、来場者全体を対象としたアンケート調査の結果、満足度は 96.7%、スタッフ対応は 100%が高評価を示し、自由記述においても「自由に移動できた」「安心して参加できた」「誰もが音楽を楽しめる環境であった」といった具体的な評価が多数寄せられた。一方で、「トイレが使いにくい」といった改善点も認められた。今後予定されている大規模改修に向けた協議に活用する。 加えて、外国人来場者についても平均 14 枚（目標 5 枚）と目標を上回り、アウトリーチ事業についても 22 コマ（目標 20 コマ）を実施するなど、多様な人々へのアクセス機会の拡充を図った。 以上より、年齢、障がいの有無、国籍等にかかわらず多様な人々を文化芸術へとつなぐ取り組みを推進し、多様性およびアクセシビリティの観点において極めて高い成果を上げたと評価する。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	持続可能で自立したホール運営ができているかどうか。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
京都コンサートホールを支援する「京都コンサートホールスペシャルスポンサー制度」の入会数。	2024 年度は 20 社、2025 年度は 38 社。2026 年度は 2025 年度の入会数を維持することを目標とする。	2026 年度は 48 社の入会数があった。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	持続可能で自立したホール運営の観点において、京都コンサートホールを支援する「スペシャルスポンサー制度」の入会数は、2026 年度において 48 社となり、前年度（38 社）を上回る結果となった。目標としていた前年度水準の維持を達成するのみならず、さらなる新規スポンサーの獲得を実現した。 本制度は、ホールの活動を継続的に支える重要な財政基盤であり、その拡大は文化事業の安定的な実施および将来的な発展に資するものである。特に、継続的な増加傾向が維持されている点は、ホールの社会的信頼性および事業価値が外部から評価されていることを示すものといえる。 以上より、本事業は持続可能で自立した運営基盤の強化において顕著な成果を上げたと評価する。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

① 普及啓発事業-01「京都コンサートホール 開館 30 周年記念事業　0 歳から楽しめるオーケストラ・コンサート」
京都市内最大規模の産婦人科医院である足立病院の協賛を得て、「0 歳から楽しめるオーケストラ・コンサート」を実施し、乳幼児とその保護者に対する鑑賞機会を提供した。本公演では、通常のコンサート形式に加え、ホール内外において楽器体験等の関連イベントを同時開催し、来場者が自由に過ごせる環境を整備した。
当日は、子どもたちがホール周辺を行き来しながら音楽や楽器に触れる姿が見られ、「初めてでも安心して参加できた」「子どもと一緒に音楽を楽しめた」といった声が寄せられるなど、従来の鑑賞スタイルにとらわれない体験型の公演として機能した。本事業では、医療機関と連携することで子育て世代へのアクセスを高めるとともに、ホールにおける新たな鑑賞環境のあり方を提示することができた。

② 普及啓発事業-04「京都市ジュニアオーケストラ石川県訪問コンサート」
京都市ジュニアオーケストラ室内楽グループによる被災地訪問コンサートとして、石川県珠洲市において計 5 回の公演を実施し、地域住民や子どもたちに対して音楽を通じた交流の機会を提供した。会場には、学校関係者や地域住民に加え、仮設住宅で生活する方々も多く来場した。
公演では、演奏を聴くだけでなく、子どもたちや来場者とともに歌う参加型プログラムを取り入れ、会場全体で一つの音楽をつくる場面が生まれた。特に、小学校での公演では、子どもたちがアンサンブルに歌声を重ね、演奏者と観客の境界がなくなる瞬間が見られるなど、音楽を通した心の交流を強く感じた。
また、仮設住宅集会所での公演では、「久しぶりに心から音楽を楽しめた」「また来てほしい」といった声が寄せられ、音楽が心の回復や地域のつながりの再生に寄与する側面が具体的に確認された。
一方で、参加した団員にとっても、自らの音楽が誰かの支えになるという実感を得る機会となり、「音楽で人とつながることの意味を初めて実感した」といった内面的な変化が見られた。

③ 普及啓発事業-05「京都コンサートホール 開館 30 周年記念事業 Kyoto Music Caravan 2025」
「Kyoto Music Caravan 2025」として、1 年を通じて京都市内の名所や観光地において無料コンサートを計 9 回実施し、「まちじゅうを音楽で満たす」というコンセプトのもと、普段クラシック音楽に触れる機会の少ない市民や観光客に対して、日常の中で音楽と出会う機会を創出した。各会場では、通りがかりに足を止めて聴き入る来場者の姿も多く見られ、「気軽に音楽に触れられる」といった声が寄せられるなど、新たな観客層へのアプローチとして有効に機能した。
最終公演として実施した大ホールでのバリアフリーコンサートでは、洛和会音羽病院と連携し、障がいのある方および介添者約 300 名を招待するとともに、障がいのある方によるチケット購入 119 枚を実現した。実施にあたっては、公演前にホールスタッフと医療スタッフが合同でインクルーシブ対応に関する研修を行い、来場者が安心して参加できる環境づくりを徹底した。
公演当日は、出入り自由・明るい照明・聴衆参加型の演出・手話通訳など、鑑賞サポートを入れたことで、「子どもの声が出ても気にせず楽しめた」「自由に移動できて安心だった」といった声が寄せられ、これまでホール来場に心理的ハードルを感じていた層にも開かれた公演となった。一方で、障がいのある方々にとって「トイレが使いにくい」といった具体的な課題も明らかとなり、今後の施設改善にもつながる知見が得られた。
本事業は、まち全体を舞台としたアウトリーチからホール公演へと展開することで、文化芸術への入口を広げるとともに、多様な人々を受け入れる鑑賞環境のあり方を実践的に提示する取組であり、地域文化拠点としての新たな事業モデルとなりうる。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈（ア）～（エ）〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）		
目標(値)（※２）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※１）		
目標(値)（※２）		
実績(値)		
団体の自己評価		

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
2025 年度は、京都コンサートホール開館 30 周年という節目にあたり、各種事業を通じて文化芸術の提供にとどまらず、社会との接点を広げる取組を総合的に展開した。 公演事業においては、国際的なオーケストラの招聘や独自性の高い企画により、高い入場者率および満足度を達成するとともに、メディア掲載の増加など発信力の強化にもつながった。また、人材養成事業および普及啓発事業においては、参加者・鑑賞者双方から極めて高い評価を得ており、次世代育成および文化の裾野拡大の観点からも顕著な成果が認められると言って良いだろう。 さらに、地域文化拠点としての機能においては、市内の教育機関や医療・福祉機関との連携、アウトリーチの拡充、子どもや障がいのある方への鑑賞機会の提供など、多様な機関と協働しながら文化芸術へのアクセスを広げる取組を推進した。とりわけ「Kyoto Music Caravan 2025」においては、まち全体を舞台としたアウトリーチ・コンサートからホール公演へとつなぐ構造を構築し、多様な人々を文化芸術へと導く導線を実現した。 加えて、若年層や障がいのある方、外国人来場者の増加など、多様な観客層の開拓において具体的な成果が見られたほか、スポンサー制度の拡充により運営基盤の強化も図られ、持続可能なホール運営に向けた進展が確認された。 一方で、現代音楽公演における集客の課題や、アクセシビリティに関する施設面での改善点など、今後取り組むべき課題も明らかとなった。これらの課題については、今回得られた知見を踏まえ、より多様な観客層に向けて広報行ったり、環境整備の充実に活かしていく。 以上より、2025 年度の事業は、芸術性、社会性、教育的価値および運営基盤の各側面において総合的に高い成果を上げ、地域文化拠点としての役割を着実に果たしたと評価する。

備考